

動き出した
「三春・花の丘公園」
開設事業

●前文

紫雲寺山・散策路を中心とした、「三春・花の丘公園」構想。町民の夢を乗せ、令和元年の十一月、着工した。二月には樹木の伐採を終え、初年度の目標を達成した。二年目の今年、新たな申請に対する関係部署の認可を待っているところだ。町民が注視する中、実行委員の一人、光善寺（浄土真宗・本願寺派）住職の井上広志さんに、事業の全体構想と、工事の進捗状況、予想される完成図について聞いた。

●質問

昨年暮れに始まった工事ですが、現在は、中断されているように見えます。その理由を教えてください。

●井上氏

中断ではなく、福島県・県中地方振興局に提出した地域創生総合支援事業（サポート事業）補助金申請の認可を待っているところです。この事業は、すでに、昨年、サポート事業として認定されていますが、助成金の申し込み受け付けは、単年度ごとに行われ、その都度、申請書を提出します。審査がとおり、予算が

振り分けられたあとも、さらに精査した申請書を新たに提出します。

最終判断を経てはじめて着工できますが、新型コロナウイルスの影響もあり、いまは長い時間を必要としています。

手続が完了するまでに数カ月を要し、その間、工事は継続できませんので、中断か？と思われるのかもかもしれません。

認可が前提ですが、事業再開は八月ごろを目途に準備を進めています。



自然を満喫しながら、ときを忘れて人生を楽しむ

●質問

この構想は何年計画ですか。二年目以降の工程を教えてください。

●井上氏

基本事業は、三年計画です。今年から来年にかけては、散策路・遊歩道の整備と植樹活動を本格化する予定です。枝垂れ桜、ソメイヨシノをはじめ、ハナモモ（三種類）、ドウダンツツジ、ガクアジサイ、レンギョウなど、季節を彩る五種類の花木を用いた並木路を敷設します。そのほか、各所に、一

年をおして楽しめる、心とごむ草花を配置したいと思っています。

発想の根本にあるのは、紫雲寺山の自然と斜面をベースに、四季を織りなす風景を演出しようとする試みです。いまある山の姿を崩さずに、活用するのです。

ピオ・トープ（生物空間）を設け、メダカやホタルが生息できる環境をつくる予定です。子どもたちにとっては、貴重な体験学習の場です。また急斜面を利用し、ソリ滑りを楽しめるスペースをつくりたいです。大自然と語りながら、お年寄りや親子連れが憩う環境を創出します。

●質問

「三春・花の丘公園」と他地域の公園との違いを教えてください。

●井上氏

「どうして三春には公園がないの？」という町民の声が、今構想のきっかけでした。そこから生まれたのが、町民主導による、町民手づくりの「花の丘公園」計画です。自然の地形を生かした、憩いの場づくりです。たとえば、福島市の「花見山公園」は、造園業者が管理・運営していたエリアです。それをベースに、さらに開発を重ねていったのです。石川町の「桃源の里」も同様の経緯をたどっています。専門業者の知恵と経

験が、公園の随所に表現されています。

「三春・花の丘公園」

開設事業は、いわば、素人である、地域住民中心の活動です。より多くの協賛、協力がなければ構想の遂行は不可能です。そのためピーアール活動が必要であり、委員会の役割と考えています。



緑に囲まれ、カフェを味わう

●質問

町民の関わり方について教えてください。

●井上氏

具体的には、町民の皆さんによる植樹活動への参加、これが基本となります。苗木の育成から始めようと考えています。花木が成長し、花芽をつけるまでには、ある程度の時間と手間がかかります。下草刈りも必要であり、肥料も、ときには施さなくてはなりません。災害からの保護も必要です。かといって、大がかりな行動を皆さんに期待しているわけではありません。負担にならない程度の参加・協力をお願いしたいと思っています。

子どもさんにもできることがあります。草花の種類をまいたり、苗木を植えることです。これは親子の共同作業のほうで、ほほえましいかもしれません。

お年寄りの方にも、手伝っていたいただきたいことがあります。知恵袋として、さまざまなお話をわたり、アドバイスをしていただきたいのです。その姿をおおして、子どもさんは、人生の多くを学ぶことができると思います。

●質問

公園の一般公開はいつごろになりそうですか。オープン後の、利用の仕方について教えてください。

●井上氏

二年後（令和四年）を目標に考えています。「来て、見て、さわって楽しめる公園」がモットーです。遠くから眺めても、十分、自然環境を満喫できるスポットにしたいのです。委員会メンバーの発足当初からの願いでもあります。どなたにとっても利用しやすい公園を目指します。早朝散歩を楽しむことももちろん、屋根のあるカフェ・スペースや、子どもの遊び場も提供したいのです。構想は膨らまばかりです。

●質問

運営に関して、どのように考えていますか。

●井上氏

基本事業の完了まで、

三年という節目はありますが、それで全てがととのったということではありません。

花木等の生育を鑑み、五年、十年後という将来を見据えて、管理・運営計画を構築していきたいと思っています。

三春町との連携を軸に、より多くの賛同者を募り、町内外に協力をはたらきかけていきます。その中で大切にしたいのは、町民の皆さまの励ましと応援です。委員会の根源のパワーそのものであるからです。



ソリスベリの丘。主役は子どもたちだ

●質問

公園へのアクセスを教えてください。

●井上氏

公園には、紫雲寺のほか、北野神社、王子神社が隣接します。いずれの参道からも入場でき、荘厳なたたずまいの中、心安らぐ時間を過ごすことができます。そのほか、三春町・公共駐車場（旧・三春中学校前）からもアクセスが可能です。インタビュアー 地域部会

編集後記

六十年前、私は三春町に生まれ三春小学校、三春中学校、田村高校と、十八年間過ごしました。▼両親が亡くなり実家が空き家になってしまったので思い切って生まれ故郷に帰る決意をして二年前に東京から三春町に帰りました。▼春真っ盛りだったので家の片づけをしながら四十年ぶりに町を散策してみました。実家からゆくり歩いて昔近くに魚屋さんがあって当時、飼っていた猫の餌を買っていたことや小学校に登校する前にパン屋に寄って昼食の食パンにジャムとかピーナッツをぬってもらったこと、また肉屋で買った食したハムカツがうまかったことなど懐かしく思い出しました。▼城山に登り、頂上から町全体を見渡す梅桃桜が満開でまさに絶景でした。そこで思ったのは、三春町というのはつくづく春が一番似合う町と感じました。▼今年には新型コロナウイルスの影響で滝桜が拝観中止になり残念でしたが、来年以降は圧巻の桜を咲かせて日本や、世界中の人々に幸せな気持ちになってもらいたいと思います。（佐藤久志）

コミュニティだより
「三春わが街」第九十六号
発行日 令和二年六月三十日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町大字真山泉一〇一
(六二)三九八八